



サラーム サトゥ マレーシア

Salam Satu Malaysia

(多民族それぞれの多様性を協調しながら)
ひとつのマレーシアとして発展しましょう(マレーシア語)

モハマド・イザム・ビン・アブドゥラ・ジャリル(愛称:イザム)

東京都市大学原子力研究所
(マラ公団職員原子力研修)

- 研修期間 2013年12月2~25日
- マレーシア・ジョホール州

皆さん、こんにちは。マレーシアから来ましたイザムです。東京都市大学原子力研究所で実施される原子力研修に参加するため、初めて日本にやってきました。愛する妻と、かわいい3人の子どもたちも一緒です。

母国では、政府系機関マラ公団傘下のクアラルンプール大学電気電子工学科で、講師として働いています。このたびの研修で得た新しい知識は、勤務先や母国の発展のために役立てたいと思っています。研修は英語で行われましたが、

日本語に触れることも多く、大変難しかったです。先生方にはいつもサポートしていただき、また多くの励ましもいただいて、無事、研修を終えることができました。

日本滞在中は、私たち家族にとって素晴らしい思い出がたくさんできました。お正月は中部日本研修センターで過ごしたのですが、餅つき、かるた、福笑い、羽子板などを楽しみ、日本の伝統文化を満喫することができました。私たち家族を快く受け入れてくださったオイスカの皆さんに、心より感

滞在中の
一番の思い出: 日本人の「おもてなし」に触れたこと

滞在中の
一番の困難: 日本語
好きな音楽: Kiroro「未来へ」
好きな映画: アメリカのアクション大作「アベンジャーズ」

謝します。

今後もこのような研修事業が継続され、マラ公団とオイスカがますます発展し、また長きにわたり友好関係が築けるよう、期待しています。



家族も一緒に日本で過ごしました

TRAINEE CLOSE UP! 研修生の素顔

Diary スタディ日記

「みんなの仕事が順調に進むように」

私は1997年にオイスカに出会い、二度の訪日研修の機会を得て、現在は総務の仕事を担当しています。設立時から今日まで、センターでは多くの研修生が学び巣立っていきました。2001年にオイスカ・ミャンマー研修卒業生会(OMAA)をつくり、その活動を充実させるのが私の仕事のひとつです。各地にいる研修生OBの様子を把握し連絡をとり、年に一度、ここで



モーウィン

ミャンマー農林業研修センター
総務部部长

1978年生まれ。97年ミャンマー農林業研修センター1期生。2001年に農業委託研修コースを、10年には総務指導コースの研修生に選ばれ来日。現在は総務部部长としてセンターの運営管理全般に携わる。

同窓会を開きます。

センターでは、スタッフ同士がたびたび話し合い、仕事が順調に進むようにそれぞれが心掛けています。車両や機械、施設の利用に関する調整は重要です。稲作、野菜、養豚、養鶏、食品加工など幅広い分野で研修を行っていますので、限られた器具や施設を融通し合うことは、とても大切なことです。近隣の人たちとはいつも交流を図っています。オイスカを理解・応援してもらうためです。お互いに必要な時には助け合う、その仲介役です。

優秀なリーダーとなり、将来は村、そして国を引っ張っていつてくれるよ



センターの自立支援制度を利用し農業を営むOBのもとを訪れたモーウィン(左)。そのフォローも大事な仕事

うな、熱意と意欲あふれる若者を研修生として募集するのも総務の仕事です。今年も5月から研修が始まります。担当として、気持ちを新たに組みみたいと思います。

次回は

→ 本部・海外事業部
廣瀬尚国です